

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	専修大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	センシュウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	文学部 人文・ジャーナリズム学科
	担当教職員名・役職	野口 武悟 教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	23
	受入企業等数	19
	受入企業等名	・株式会社 毎日新聞社・株式会社 読売新聞社・株式会社 中日新聞社 他16社
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学部の専門科目(ジャーナリズム、メディア関係)での学修をもとに、ジャーナリズムやメディアについてのより深い理解を得るため、また、ジャーナリズムやメディア関連業界での就業意欲を高めるために、新聞社や出版社等において2週間取材や執筆、編集などの実際の業務に従事する。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		3~4年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		前期授業期間中に事前指導を行い、夏季休暇期間中に受け入れ企業で2週間にわたる就業体験を行う。また、後期授業期間中に事後指導(受け入れ先企業も招いた成果発表会)を行っている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	企業の受け入れ担当者を招いての「インターンシップ成果発表会」を実施している。学生は、インターンシップを通して経験した成果を、レジュメやパワーポイント等を用いて発表する。
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他

	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	受け入れ企業の担当者に個々の学生の評価票を作成していただき、教員が情報を共有している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前指導としては、「インターンシップのねらいと意義」「ビジネスマナーの基礎」「インターン先企業の研究」などを7回(1回90分)にわたって教員が指導している。指導に当たっては、グループワーク等を取り入れ、主体的に学修できるよう留意している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ企業の担当者にも出席していただき、成果発表会を公開形式で事後指導として実施している。学生には1人10分で「インターン先の企業概要」「体験した業務内容」「体験を通して学んだこと」「今後に向けて」の4点を盛り込んだプレゼンテーションを行ってもらい、受け入れ企業の担当者と教員が指導・講評している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ企業の担当者には、評価票の作成を依頼している。評価票は、「勤務態度」「業務への熱意」「業務の理解」及び「総合所見」について文章で記述する形式のものであり、その内容を教員で共有し、学生へのフィードバックに活かしている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	実施前に志望理由書を作成し、実施後に成果発表会を行っている。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実施前に志望理由書を作成、目的や業界・企業分析を深めさせている。実施後には、学科専任教員が全員出席のもと、学生1人ずつが「インターン先の企業概要」「体験した業務内容」「体験を通して学んだこと」「今後に向けて」の4点を盛り込んだプレゼンテーションを行い、受け入れ企業に作成いただいた評価表をもとに教員が学生にディベート形式で指導・講評し、学生へフィードバックしている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	10日間(2週間の平日)
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2週間(平日の10日間)の就業体験を原則として実施している。受け入れ企業の都合により5日間となる場合もあるが、5日間を下回ることがないように留意している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ企業の担当者による評価票を作成していただき、成績評価の参考資料としている。また、事後指導として実施している公開の成果発表会には、受け入れ企業の担当者にも出席いただき、指導・講評をしていただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://syllabus.acc.senshu-u.ac.jp/syllabus/syllabus/search/SyllabusInfo.do?nendo=2017&kogikey=30667&setti=1
問い合わせ先	大学等名	専修大学
	担当部署名	教務課 文学部
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	044-911-1254
	メールアドレス	bkyomu@acc.senshu-u.ac.jp